

飯 豊 山 (弥 平 四 郎) 山 行 記 録



目的地	飯豊山 (弥平四郎登山口から)	期 日	平成19年6月10～11日 (日・月)
山人	笠原正雄・澄子	特 記	妻のピッケルを新規購入して出かける。

地 点 名	(着) ~ (発)	天候	記 事
第1日 (10日)			
与 板	午前3:00 発	曇	中之島～津川高速深夜割引。徳沢駅から R459 が工事中で狭い山道を迂回。弥平四郎のゲートは鎖が開いていた。走行約 140 km。
祓 川 駐 車 場	5:45～6:30	小雨	五目赤飯朝食。到着時には小雨模様であったが、上がって来た。案内看板は新ルートを進めている。そこに行く。歩き出してすぐ重ね着を一枚脱ぐ。
H1082 休 憩	7:30～7:40	曇	道は良く踏まれている。登り一丁で昨日の昼クラス会の酒汗がにじみ出る。H1082で平坦路となる。向かいに疋倉山への稜線が樹間から見える。
上りにかかる	7:55	〃	少し降り登りを経て、登りにかかる。
上ノ越 T 字分岐	8:25	〃	手前で一枚岩の淵沢を越える。すぐに一枚岩の斜面を通過。カカウの群生を経てここで右折する。笹刈切り道も混じりは歩きにくくなる。
休 憩	9:15～9:25	〃	少ピークを越えながら進んでいる。左に樹間から頂は雲に覆われているもののお山が大きくみえた。
雨具上衣着用	9:50	〃	ガスの中に入り、喬木の露のためザックカバーも着ける。巻岩山はGPS で通過を知る。その付近で雪を歩く。
疋 岩 分 岐	10:05	〃	夏道にカカウやツツミが咲く。左折から大きく右旋回するように進む。途中左に入り込むし岩の看板が足元にある。暑くなり雨具脱ぐ。
疋 岩 山 三 角 点	10:15	〃	ここから左に下ると雪の上に出た。ガスで進行方向が分からない。左に下って見たが道が見つけられない。夏道まで登り返して地形図と磁石で確認する。今度は右に斜登高する。7～8mの急斜面の下に夏道を見つける。
急傾斜を終えて歩き出す	10:50	〃	この急傾斜を滑り降りたが、予想以上に雪が固くスピードが出て制御出来ず着地で転び、右腕を少し擦りむいた。ピッケルを抜き、ステップを切りながら登り返し、妻にピッケルを手渡し、後向きに慎重に下らせる。右腕の傷にカットバンを貼って歩き出す。この急斜面の降下は反省材料だ。
三 国 小 屋	11:30～12:00	〃	夏道と雪を交互に踏んで到着。3年前に建替えられた小屋は内外とも綺麗だ。中でランチ。忘れ物だろうかシミズと書かれた帽子があった。管理室が施錠されて居らず、覗くと快適そうな寝床がしつらえてあった。
七 森	12:40	〃	やはり夏道と雪を交互に歩く。雑木の中の夏道の標柱前を出た。薄日が当たり暖かく暑くなる。
種 蒔 山 付 近	1:15	〃	雪と笹藪の剥げた草地上がる。右の下方の残雪が途切れた所に夏道が見えた。背が低いからと藪を分けて近道をしようとしたが、とても歯が立たなかった。ピッケルを抜いて雪斜面を降りる。ここで妻が滑った。少しでも着地の衝撃を減らそうかと掴みにかかった。その際、手首の甲と唇を固い雪に擦ってしまった。少し登り降りしてピッケルワークの練習をする。
切 合 小 屋	2:20	〃	周囲に雪は無い。少し食べてすぐに歩き出す。この後長い雪の登高となる。
通 り 雨	2:45	雨	雪の登りの途中から雨が降って来た。雨具を着たいが傾斜があつてザックを滑り落す恐れがあることから、暫く我慢して進み傾斜が少し緩んだ所で雨具上下をつける。雨足がかなり強くなり、撤退も口に出したが、とりあえず夏道に上がってから決めることにして前進する。幸いなことに風は無い。左の灌木帯の掘られた夏道に上がると雨水が流れて来る。雨雲のヘリに明るみが見えて来た。徐々に雨は小康に向かって行った。
草 履 塚	3:00	小雨	雨は弱まり、姥権現に來れば、ほぼ止んで来た。
御 秘 所	3:25	曇	岩は殆んど濡れていなかった。周囲はウツクイゲが多く咲く。
一 王 子	4:10	〃	黄色のペンキマークに従い礫岩の御前坂を登れば、広場となる。右の水場方向に進んで見たが、すぐに残雪が覆っていて、水場はその下だ。

本 山 小 屋	4:20	曇	最後の登りをすれば、はじめにトイレ棟がガスの中にボンヤリと見えて来て到着する。1階に神奈川からの同年代男1・女2の隊が先着していた。2階に上がり、計5人で小屋利用。彼らは今朝5:30川入入山で天狗平に下りという。全4泊で山中2泊の羨ましい山旅だ。
就 寝	?		濡れた物を室内一杯に下げて乾かす。予想以上に寒い。ガスで展望も無いことから、トイレ以外は中で過ごす。夜中、雨風の音と寒さで何度か目が醒めた。一度三日月と新発田方面の明かりが見えた。2:30に外に出た妻が星と他に米沢方面の明かりも見えたと言う。
第2日(11日)			
日 の 出	4:15	晴	日の出前に外に出れば、大日岳が青く見える。牛首山にかかる雲が徐々に下がって来る。何枚も写真を撮る。東の空は雲があったがその隙間から昇陽が始まる。同宿の3人とともに朝日を迎える。
本 山 往 復	5:55~6:35	〃	小屋に入り朝食と出発準備を全て済ませ、山頂を踏みに行く。北股岳から机差岳まで良く見える。御西へ向かう道が広く草原状で気分が良さそうだ。山頂から帰る途中、3人が歩き出して来た。小屋に戻りすぐ下山開始。
御 秘 所	7:40	〃	御前坂の途中で雨具上衣を脱ぎ、まだ濡れているが、昨日上山時の長袖シャツ一枚に着替える。人間ハンガーだ。花の写真を撮りながら進む。
草 履 塚	8:00~8:15	〃	少し食べ、この先の雪の下りに備えて念のためピッケル歩行とする。
切 合 小 屋	8:30	〃	写真撮影のため、コースタイムより+30分。ストックに持ち替える。
種 蒔 山 付 近	9:00~9:20	〃	上山時ピッケル練習をした斜面の雪を集めて草地に上がり、ガスで加熱して水をつくる。固いザラメ雪は体積の7割ほどが水になる。三国小屋が見える。虫が出て来てハッカ油を帽子とシャツに付ける。
三 国 小 屋	10:25~11:15	〃	少し雪斜面を登って到着。今度は晴れで外のベンチでランチ。下ろしたザックに虫がたかる。再度ハッカ油をつける。剣ヶ峰を見下ろす。
ピッケルで登る	12:05	〃	昨日失敗した雪斜面を登る。俺の一本だけを抜き、上がり終えてからそれを下に流して妻に渡す。昨日の降りを再度反省する。
疣 岩 山	12:20	〃	三角点を過ぎて、丁度よい根曲がりの木に腰掛けて一休み。数分後疣岩分岐から左折急降下へ入り、新長坂ルートで松平峠へ向かう。砂礫混じりの下りでズルッと滑る。猪鼻の水場はトラロープ2本で草藪へ沢に向かって下がっている。急降下で腕力が必要だ。とても行く気にはならなかった。
松 平 峠	1:00	〃	裸尾根を下って右折。山腹の道に降りる。右に傾斜する歩き難い道が頻繁で、かつ根張りの道、ヘツリ道もあって、うんざりする。上山ルートの方数段歩きやすい。
十 森 水 場	1:25	〃	道を横断する沢水を飲む。
休 む	2:00~2:05	〃	立ち休み。少しは歩きやすい道も多くなって来た。
土 石 流 道 崩 れ	2:10	〃	道が崩壊している。土石の窪みで道を探す。
祓 川 山 荘	2:30	〃	右左と交互に沢音を聞きながら下り、山荘広場に出る。中を覗いて見ると床に座卓が並んでいた。石油ストーブもある。少し手前でコンクリートの引水タンクがあったが、外の蛇口で水がほとぼり出ている。
祓 川 渡 渉	2:45	〃	山荘を過ぎれば遊歩道だ。ヒョッコリと川に降りる。道なりが橋であろう。そのまま流れに足をを入れて石伝いに渡ろうとしたが、水ゴケだろうが滑りやすい。戻って、数10m上流の流れが平均する所を渡る。脛ほどの深さだが、素早く渡ればズボンの裾が流れを遮って靴の中に水は入らなかった。右岸の少しの草藪を上がれば、山菜道があった。進んで登山道に戻る。橋に向かう道にトラロープが張られていて進入を妨げている。
林 道 に 上 がる	2:50	〃	「おつかれさまでした」の看板。ザックを路肩に置き、1~2分歩いて駐車場の車を回収。弥平四郎のゲートは登山者には解放するが、山菜の盗採を防ぐのが目的と聞く。妻が季節終わりの蕨を少し採った。
弥平四郎ゲート	3:30	〃	ハナウドの群生地を見ながら進む。途中で猿が2匹。ゲートは今日も開いていた。集落から左折して新稲荷峠を越え、いいでの湯に向かったが、月曜定休だった。
高 郷 ふ れ あ い ラ ン ド 入 浴	4:35	〃	更に進み、西会津ICに向かう途中でゆっくり入浴し、雷神そばを食べて帰路につく。三条ICまで高速通勤割引利用。

出発3日前に、西会津町役場に問い合わせたところ、祓川山荘に向かう橋が流されていて、来月の山開きには間に合わせるが、まだ架けてないとの回答があった。そこで、飯豊朝日の登山者情報HPの掲示板で渡渉が出来るかどうかを尋ねた。更に、西会津山の会会長さん宅に電話で問い合わせ、新ルート(八ツ小屋尾根)の情報を得た。どちらにするかは現地判断することにして出掛けた。また、今山行に備えて妻のピッケルを買った。ただし、登山者情報等から判断してアイゼンは持参しなかった。また、山中では、小屋で3人と出会ったのみだった。

当初、行けるならば昨年新建の御西小屋に泊まりたいとも思っていたが、雪斜面で手間取り、雨具の着脱等で時間を費やし届かなかった。雪斜面の急降下で2つの失敗があったが、反面その怖さを体感出来たとプラスに思っている。